

現況報告書の活用

(2) 相談支援センターについて

大阪府立成人病センター
がん予防情報センター 企画調査課
池田 章子

現況報告2012による情報提供 ～がん相談支援センター～

現況報告では、がん診療拠点病院の役割にかかると、様々な診療情報が取りまとめられている。

《がん診療拠点病院の役割》

1. 専門的ながん医療の提供
2. 地域のがん診療の連携協力体制の構築
3. がん患者に対する相談支援及び情報提供

上記の3について重要な役割を果たす「がん相談支援センター」を採り上げ、現況報告2012に基づき調査を行った。

現況報告2012による情報提供 ～がん相談支援センター～

現況報告2012のうち、「がん相談支援センター」における主な添付資料は下記の通りである。今回は、別紙38、別紙41～44のデータを用いて、がん相談支援センターにおける体制および実績について分析することを目的とした。

- 別紙38 相談支援センターの相談件数と相談支援内容
- 別紙39 相談支援センターにおける情報の収集方法
- 別紙40 相談支援センターで提供可能ながん種別の情報
- 別紙41 相談支援センターにおける相談支援の実績
- 別紙42 相談支援センターの相談対応状況
- 別紙43 相談支援センターの体制
- 別紙44 相談支援センターの状況
- 別紙45 相談支援に関し十分な経験を有するがん患者団体との連携協力体制構築の取り組みの状況

大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(表紙)

相談支援センターの概要(1) ～がん相談支援センターの業務～

- がんの病態、標準的治療法等がん診療及びがんの予防・早期発見等に関する一般的な情報の提供
- 診療機能、入院・外来の待ち時間及び医療従事者の専門とする分野・経歴など、地域の医療機関及び医療従事者に関する情報の収集、提供
- セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介
- がん患者の療養上の相談
- 地域の医療機関及び医療従事者等におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
- アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する医療相談
- HTLV-1関連疾患であるATLに関する医療相談
- その他相談支援に関すること

相談支援センターの概要(2) ～がん相談支援センターの要件

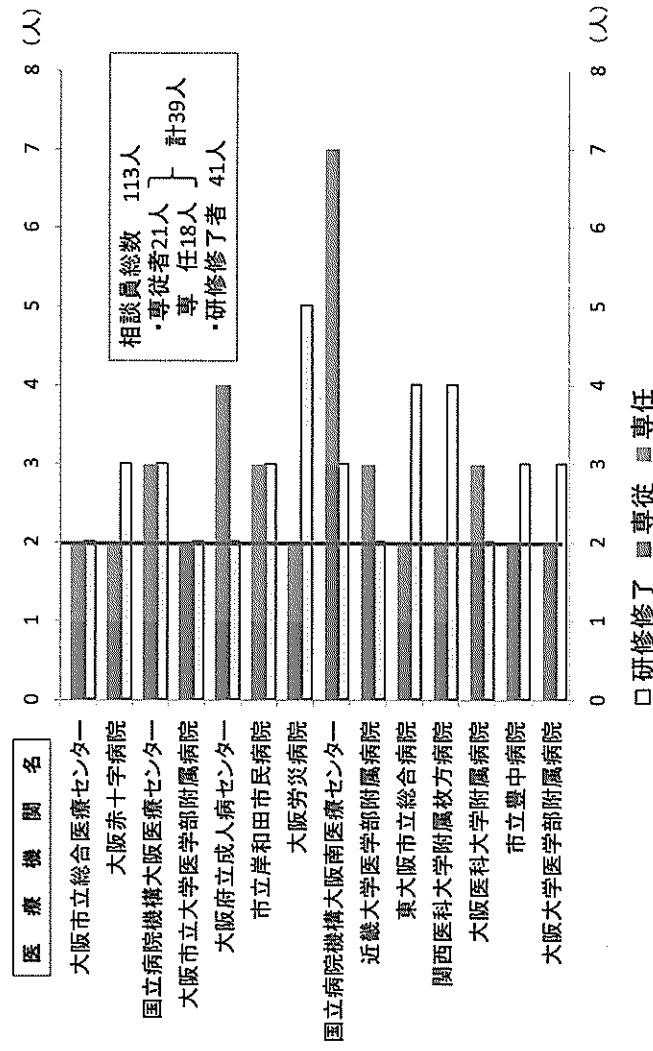
厚生労働省では地域がん診療連携拠点病院
(がん相談支援センター)の要件のひとつとして
「国立がん研究センターによる研修を修了*した
専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞ
れ1名以上配置すること」
としている

*平成24年10月31日までに相談支援センターの相談員のうち1名は「相談員基礎研修(2)」
まで修了し、もう1名は「相談員基礎研修(3)」まで修了していることが求められている

厚生労働省 がん診療拠点病院の整備に関する指針(健発第0301001号
平成20年3月1日厚生労働省健康局長通知平成23年3月29日一部改正)

がん相談支援センターの体制(1) ～研修修了、専従・専任者数の状況

2012.9.1

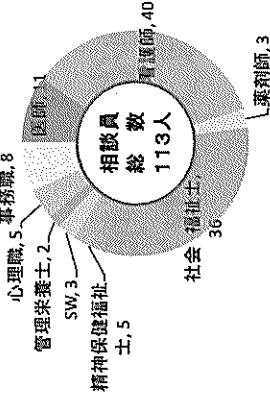


がん相談支援センターの体制(2) ～職種別相談員数、医療機関別

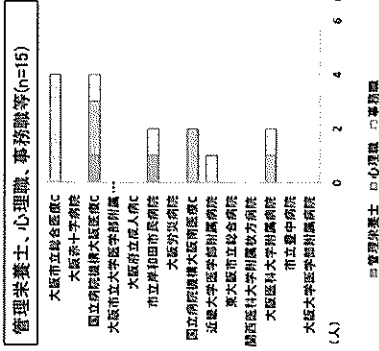
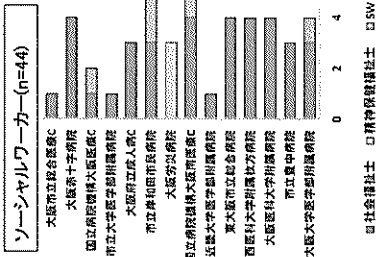
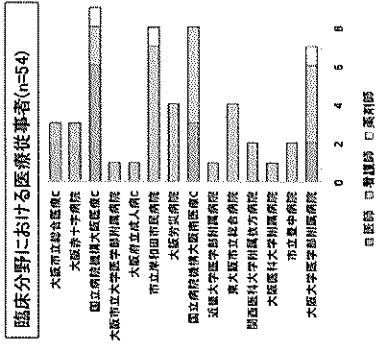
14拠点病院113人の職種を3つに分類した

- 臨床分野における医療従事者
- ソーシャルワーカー
- 管理栄養士、心理職、事務職等

2012.9.1

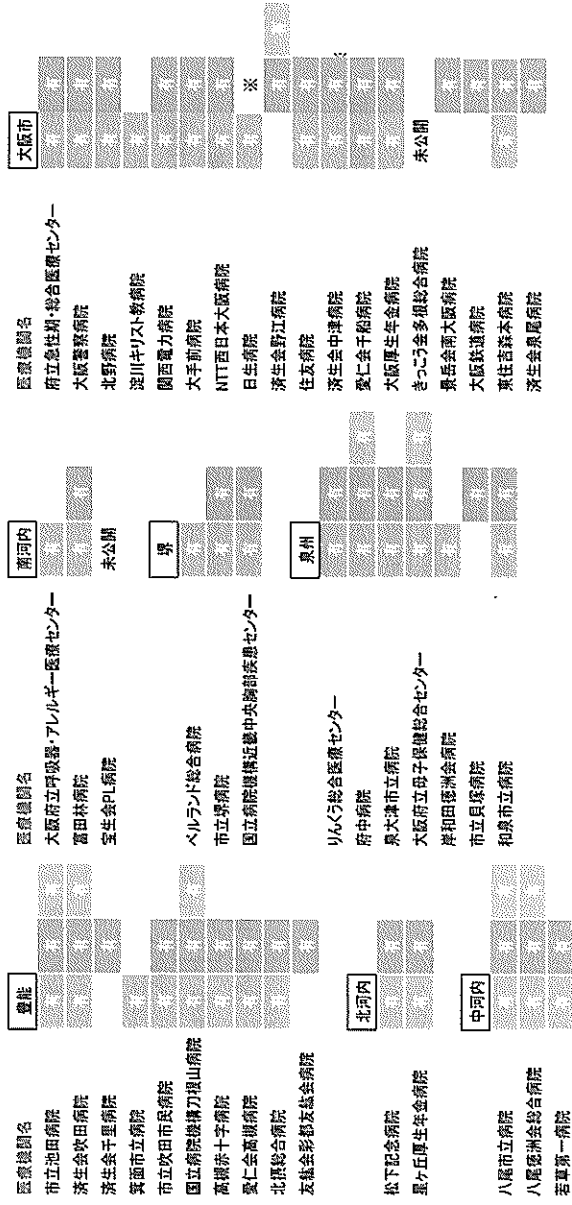


各医療機関に臨床分野における医療従事者とSWは少なくとも1人ずつ配置



大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙43)

がん相談支援センターの体制(3) ～府拠点病院における職種

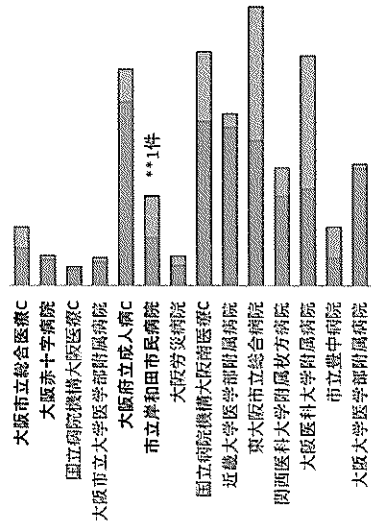


※相談内容に応じて他職種も対応

相談支援センターの相談実績(1) ～医療機関別の相談件数・手段

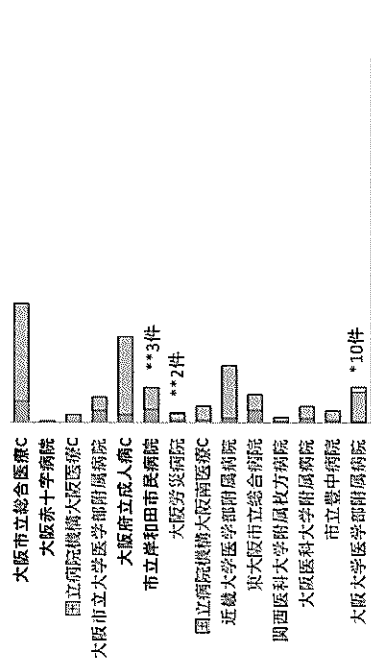
自施設の患者・家族*による
相談件数 (n=4042)

2012.6.1～7.31



他施設の患者・家族**による
相談件数 (n=1020)

2012.6.1～7.31



*「自施設の患者・家族」とは、貴院で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院で診療を受けた患者・家族のことを示す。
**「他施設の患者・家族」とは、貴院以外の医療機関で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院以外の医療機関で診療を受けていた患者・家族のことを示す。

大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙38)

別紙41の記載内容

1. 平成23年6月1日からの相談実績が50件分まで記載。
同一の相談者に対して複数回に渡って対応した場合、同じ日付でも対応した回数が件数として反映。
2. 1回の相談で、内容が多岐に及んでも、1回(件)としてカウント。

日付	主な相談者	対応した相談員の職種	相談方法	対応時間(分)	相談の内容 (主たるものを記入)	対応の内容 (主たるものを記入)
例 6/1	他施設 患者本人	社会福祉士	Email	120	転院・医療機関の紹介	情報提供
1 6/1	自施設 (患者本人)	社会福祉士	対面	30	ホスピス	他施設への連携
2 6/1	自施設 家族・親	福祉士	対面	15	医療費	他施設受診の説明
3 6/1	自施設 (患者本人)	社会福祉士	対面	10	転院・医療機関の紹介	他施設への連携
4 6/1	自施設 家族・親戚	社会福祉士	対面	20	(在宅医療、がん治療) 1件	自施設他部門への連携
5 6/1	自施設 患者本人	社会福祉士	対面	65	医療者との関係・コミュニケーション	他施設への連携

別紙41記載の主たる相談内容

14がん診療拠点病院における700件の相談内容について、下記のワード検索を用い、項目毎に分類した。50件以上存在した項目は、がん診療、メンタル、緩和、連携、医療費、在宅・介護であった。

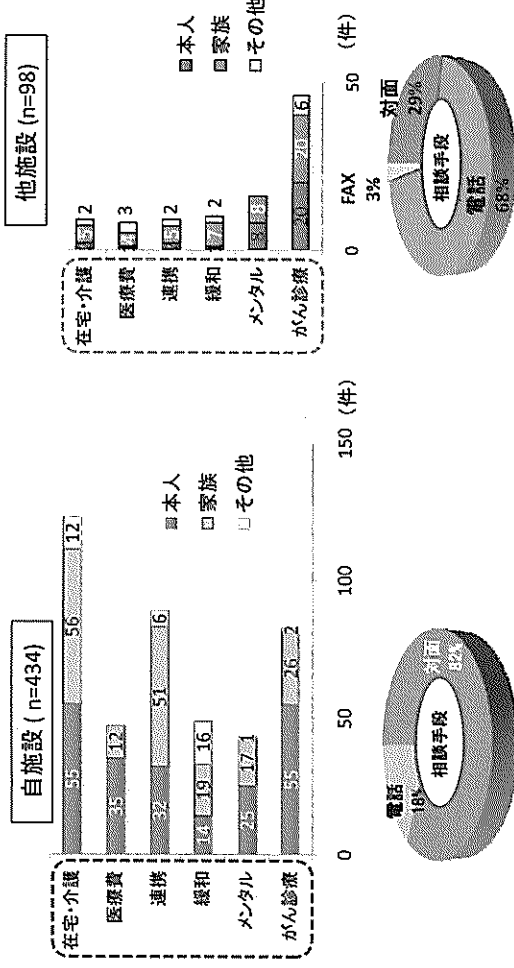
日付	主な相談者	対応した相談員の職種	相談方法	対応時間(分)	相談の内容 (主たるもの表記)	対応の内容 (主たるものを記入)	検査件数	項目	件数
例 6/1	他施設 患者本人	社会福祉士	Email	120	転院・医療機関の紹介	情報提供	70		
1 6/1	自施設 患者本人	社会福祉士	対面	30	ホスピス	地域への連携	7	がん診療	129
2 6/1	自施設 家族・親戚	社会福祉士	対面	15	医療費	他施設医師の説明	5	メンタル	59
3 6/1	自施設 患者本人	社会福祉士	対面	10	転院・医療機関の紹介	地域への連携	4		
4 6/1	自施設 家族・親戚	社会福祉士	対面	20	在宅医療、がん治療	自施設他部門への連携	41	緩和	59
5 6/1	自施設 患者本人	社会福祉士	対面	65	医療者との関係、コミュニケーション	地域への連携	14		
							98	連携	98
							55	医療費	55
							89	在宅・介護	132
							47	セカンドオピニオン	47
							34	コミュニケーション	34
							613	合計	

大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙41)

相談支援センターの相談実績(2) ～項目別相談者・相談手段

2012.6.1～

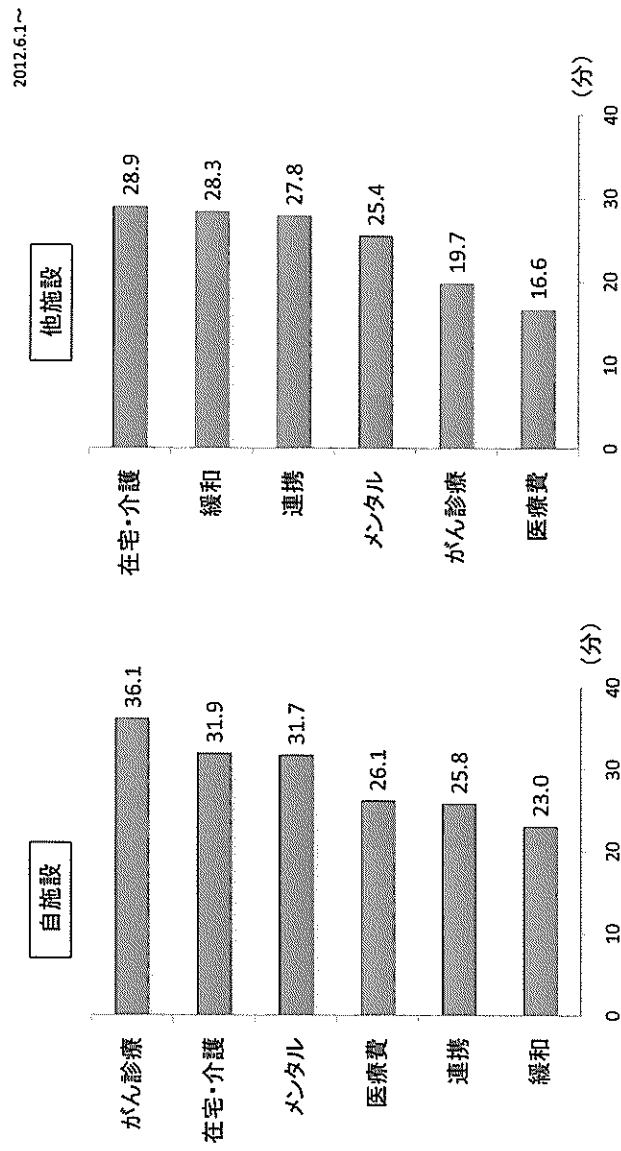
自施設、他施設併せて50件以上存在した項目について相談者数とその手段について調査した。



*「自施設」とは、貴院で診療を受けている場合、および以前に貴院で診療を受けた場合のことを示す。
**「他施設」とは、貴院以外の医療機関で診療を受けている場合、および以前に貴院以外の医療機関で診療を受けていた場合のことを示す。

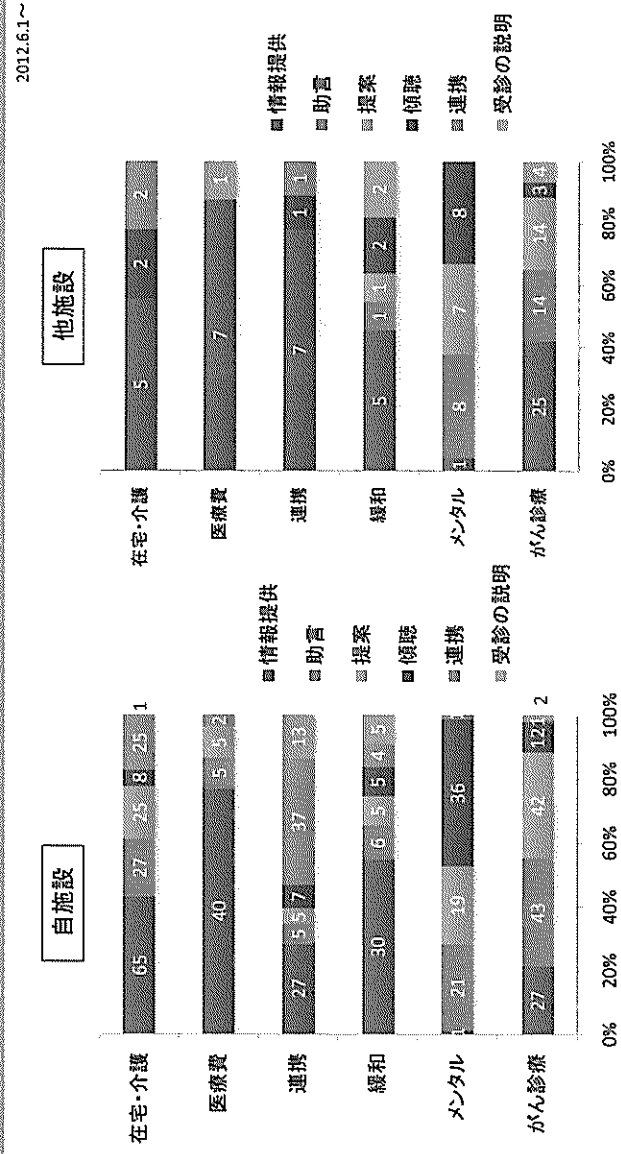
大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙41)

相談支援センターの相談実績(3) ～項目別対応時間



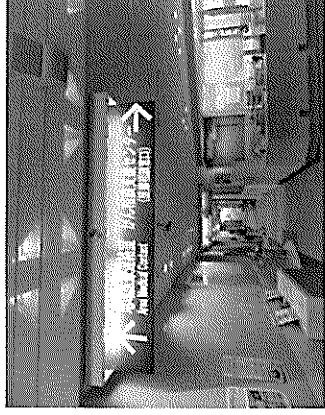
大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙41)

相談支援センターの相談実績(5) ～項目別対応内容の分布



大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙41)

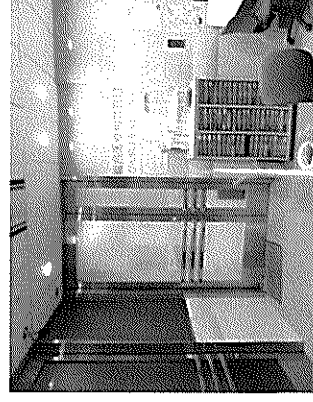
院内インフォメーション



4F	がん相談支援センター がん相談支援センター がん相談支援センター	↑
3F	がん相談支援センター がん相談支援センター がん相談支援センター	↑
2F	がん相談支援センター がん相談支援センター がん相談支援センター	↑
1F	がん相談支援センター がん相談支援センター がん相談支援センター	↑
4F	がん相談支援センター がん相談支援センター がん相談支援センター	↑

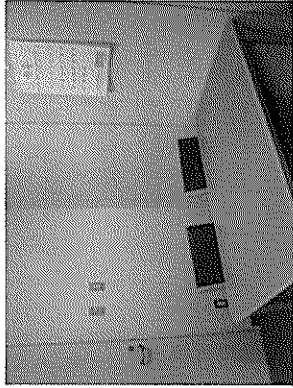
大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙44)

がん相談支援センター入口



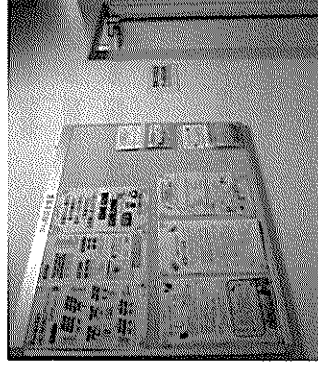
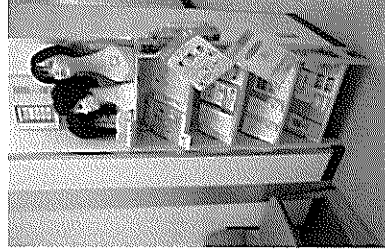
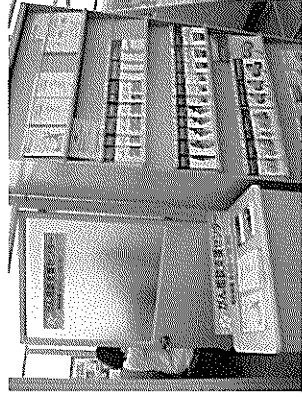
大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙44)

室内の様子



大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙44)

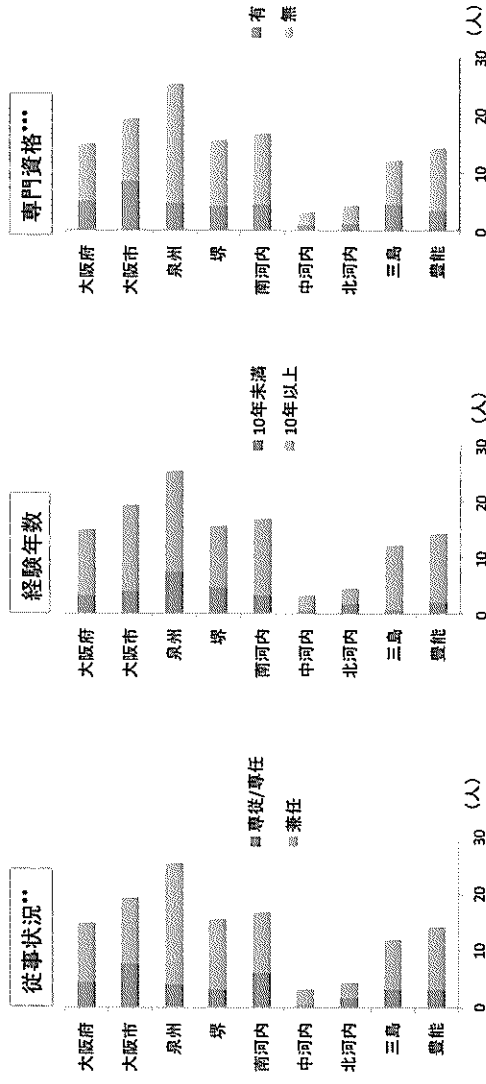
情報の提供



大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙44)

～がん罹患1,000*あたりの専門的な知識及び技能を有する医師数、医療圏

(補足) 集学的治療の体制 化学療法

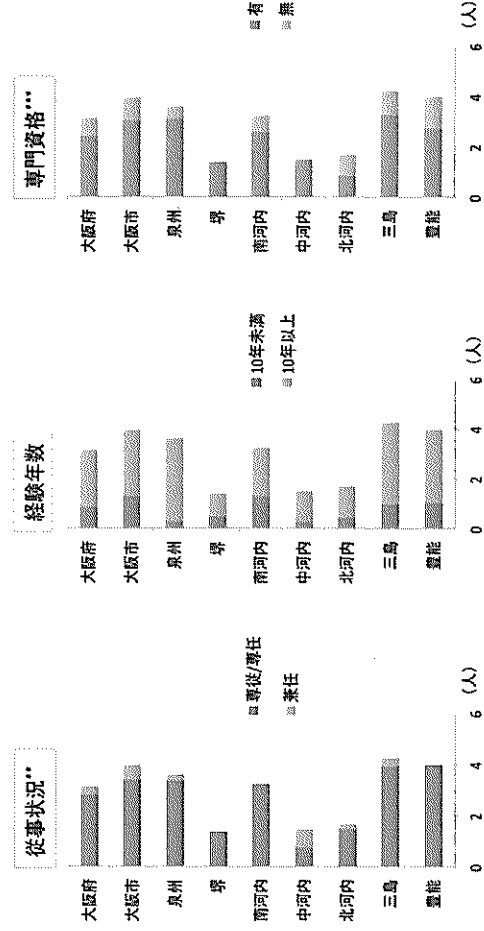


*大阪府がん登録2004-2008(統計で見る大阪府のがん<http://www.ccsat.jp/osaka/>)
 **「専従」、「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専任」については「5割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者
 ***化学療法診療医師専門資格：日本臨床腫瘍学会、日本がん治療機構が認定している化学療法に関連する資格

大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙9、12)

～がん罹患1,000*あたりの専門的な知識及び技能を有する医師数、医療圏

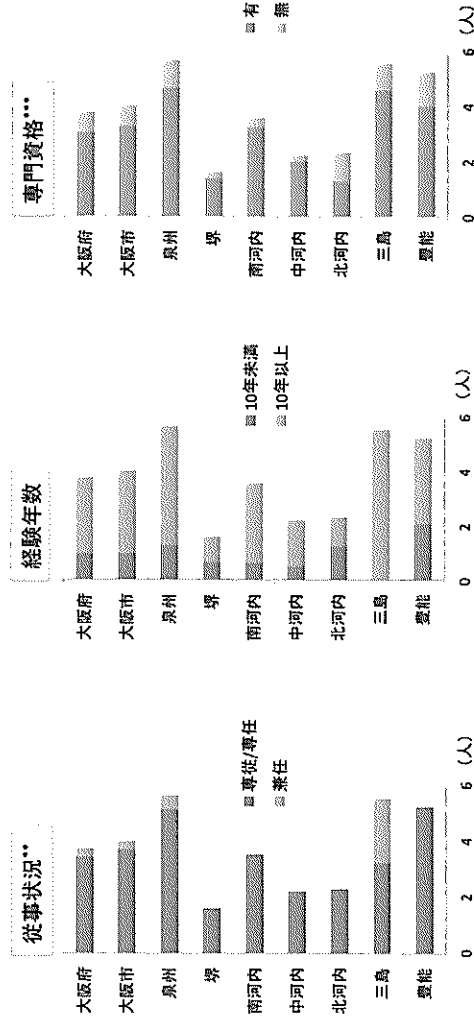
(補足) 集学的治療の体制 放射線療法



*大阪府がん登録2004-2008(統計で見る大阪府のがん<http://www.ccsat.jp/osaka/>)
 **「専従」、「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専任」については「5割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者
 ***放射線診療医師専門資格：日本医学放射線学会が認定している放射線診療に関連する資格

大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙10、13)

～がん罹患1,000*あたりの専門的な知識及び技能を有する医師数、医療圏
 (補足) 集学的治療の体制 病理



*大阪府がん登録2004-2008(統計で見る大阪府のがん<http://www.ccsstat.jp/osaka/>)
 **「専従」、「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専任」については18割以上、「専従」については15割以上、当該業務に従事している者
 ***病理診療医師専門資格:日本病理学会、日本臨床細胞学会が認定している病理診療に関連する資格

大阪府がん診療拠点病院現況報告2012(別紙20、24)

現況報告2012による情報提供～まとめ

- 大阪府の国指定14がん診療拠点病院について、相談支援センターの内容及び業務を、要件に沿って調べた。
- その結果、
 1. 相談員の配置が国の要件を満たしていること
 2. 多岐にわたる職種別陣容
 3. 相談件数
 4. 相談の手段・時間・内容
 5. 相談支援センターの入口、室内の様子など、の情報・現状が把握された。
- 相談支援センターの現状や機能を把握する上で、現況報告書が一定の役割を果たすと考えられた。